

（左から）橋村 朋霞 氏、上野 雅彦 氏、【株式会社 灰田鉄工】灰田 英樹 氏、池上 あゆみ 氏、金井 優子 氏

開発委託から内製化、社外への導入提案へ。Bizrobo!とともに広がる商社のRPA活用

CORPORATE PROFILE

社　名
小松鋼機株式会社

事業内容
商社・卸売・小売

ウェブサイト
https://komatsukouki.co.jp/

- お話を伺った方 -
機工事業部 業務課 課長
表 牧子 氏

同事業部 課長
上野 雅彦 氏

同事業部 業務課
橋村 朋霞 氏

Highlight

- ☑ RPA社内開発で年1,000時間相当の業務効率化
- ☑ 知見をもとに得意先へのBizRobo!導入提案を推進
- ☑ 新入社員がRPA専任。運用と外販を担う新たな職種に

北陸地方を地盤に鋼材・産業用工具の販売事業などを展開する小松鋼機株式会社は、定型的な事務作業を自動実行するRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）のツール「BizRobo!」を2020年に導入。営業事務など約20業務に向けて内製したソフトウエアロボットが、現在およそ180体稼働している。これにより、年1,000時間相当の人的リソースを創出。さらに得意先にもBizRobo!の導入を積極提案しており、製造業のデジタル化を自社内外で加速させている。社内におけるRPA開発運用担当には新入社員を専任で充て、ユーザー視点の知見が生かせるRPA外販の営業職としても育成中。担務が固定化・属人化しやすかった事務職の変化対応力・デジタルスキルの向上と、新たなキャリアパスの確立を目指している。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

導入背景 開発委託型のRPAでポテンシャルを確信



表 牧子 氏

製造業DXの具体策として内製とツール販売を計画

石川県小松市に本社を置く小松鋼機株式会社は、鋼材の卸・加工や産業用機械・工具・システムの販売を手がける、従業員数約120名の企業。このうち機械商社部門である機工事業部は富山・福井までの北陸3県を中心に、およそ500社との取引がある。

自社と取引先が近年直面する課題である「製造業のDX（デジタルトランスフォーメーション）」に関連し、比較的取り組みやすいRPAに着目した同事業部は2019年、地場システム開発会社による開発受託サービスを採用。月次の締め処理の一部をロボット化したところ、担当者が毎回6日間かかりきりだった確認作業を数時間まで短縮する劇的な成果を挙げた。

同事業部のバックオフィスを束ねる業務課課長の表 牧子氏は「RPAによる生産性向上を実感し、活用を広げるための社内開発と、そのためのツールを検討するようになりました」と振り返る。

BizRobo!を選んだ理由 スモールスタートから拡張可能な製品設計を評価

国内RPA市場の主要3製品を比較

社内開発用途のRPAツール、さらに顧客にも提案できる商材としての適性を考慮した上で、同社は2020年、クライアント型製品「BizRobo! mini」を導入。その後サーバ型のライセンス「BizRobo! Lite」に移行している。

こうした実際の経過が示すとおり、PC1台からスモールスタートで使い始めた後、複数端末利用や全社展開といった利用規模拡大に応じて円滑にアップグレードできる点が、BizRobo!を選んだ主要な理由の一つだったという。

さらに、国内シェアが高い主要RPA3製品の比較では、ライセンス構成のほか価格面や日本語対応、AI-OCR製品との連携機能などを検討。ここで総合的に優位と判断され、BizRobo!の導入が決まった。

BizRobo!による社内開発体制の構築に先立ち、まず開発委託型のRPAで有用性を確かめる慎重なアプローチが奏功した経験から、同社は得意先へのRPA導入提案においても、原則として同様の手法を推奨している。



（左から）橋村 朋霞 氏、上野 雅彦 氏

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

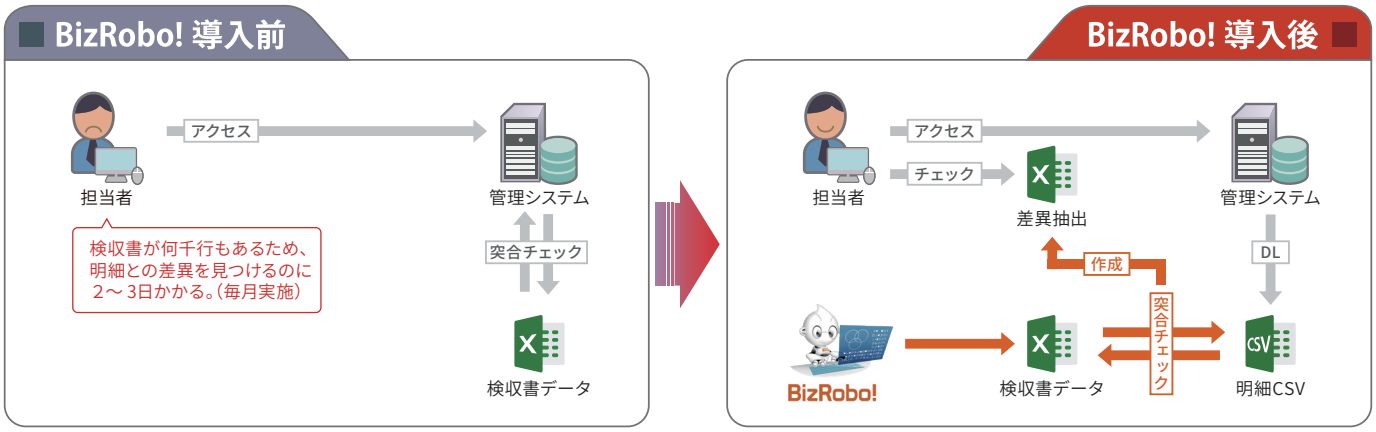
対象業務 商社部門の営業事務を中心に定型業務を自動処理

約20業務・180体のロボットが稼働中

同社では「月間数千明細分の検収書の突合」など、機工事業部の約20業務で、およそ180体のソフトウエアロボットが稼働中。BizRobo!を用いたこれらの開発運用は現在、2023年入社の若手が専任で担当している。

対象業務の選定においては、実務に通じた表氏が候補を見いだす一方、リアルな知見獲得を目指す営業部門も協力。RPAの基礎や事例を紹介する社内セミナーを開催するなどしロボット化できる業務を集めてきた。

RPA社内開発へのシフトを決めた当初、同社内では、同時導入するAI-OCRによる紙帳票の認識を起点とした自動処理の推進が有力視されていた。もっとも実際には「紙をスキャンするより、既にデジタル化されているデータの最適化処理を優先」（表氏）と判断。RPA活用に併せて紙帳票のメールへの転換を進めるとともに、OCRでは電帳法対応を含むPDFの処理を重点的に行っている。



検収書の突合をする業務

導入効果 年1,000時間相当の余力を創出

得意先への紹介で BizRobo!ユーザーを拡大

同社がBizRobo!によって創出した人的リソースは目下、年間およそ1,000時間相当に達する。表氏は「属人化していた作業がRPA導入を機に分担可能となり、担当者の休暇中も滞りなく処理が進むなどの波及効果もあり、費用を大きく上回る効果が得られている」と評価する。

商社が提案する商品としてのBizRobo!も、着実に実績を重ねつつある。小松鋼機の紹介を受け2024年からRPA活用に取り組む近隣の金属加工会社、株式会社灰田鉄工では現在、社員2名がBizRobo!による社内開発を担当。20名余が従事する事務部門の業務効率化を推進中だ。代表取締役の灰田英樹氏は「機械設備を定期的に更新する生産現場と同様、事務部門にも業務を棚卸ししアップデートするきっかけや、担当者の身になるスキルがあればと考えていた私にとって、RPA導入と社内開発は、まさにぴったりのアイデアでした」と話す。



【株式会社 灰田鉄工】池上 あゆみ 氏、金井 優子 氏

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

今後について

BizRobo!社内活用の範囲を拡大

ライフイベントと調和する働き方を得意先にも提案

小松鋼機の社内におけるBizRobo!を用いたRPA活用では、引き続き営業事務の効率化・標準化を推進。外勤営業の事務負担軽減や電帳法対応、総務関連業務への応用にも注力する。

開始から4年余を経た社内での開発運用体制を通じ、業務が固定化・属人化しやすかった事務職の変化対応力やデジタルスキルの底上げ、さらにデジタルツールの外販営業という新たなキャリアパスの確立も目指す。

中小製造業の事務部門のデジタル化は従来、自動化に積極的な生産現場に比べて遅れが目立ったという。もっとも人手不足の深刻化に伴い、長期勤続する従業員のライフイベントと調和する働き方が強く求められることから、「バックオフィスのDXへの関心が今後急速に増す」と同社は予測。導入効果が得やすいRPAからの着手を得意先に推奨し、年10件ペースの外販を通じて普及を図りたい考えだ。

現場の声

着実なRPA活用拡大の「4段階」を提唱

専任でも兼務でも、ロボット開発に大きな手応え

中小製造業の事務部門におけるデジタル活用は、これからが本番。RPAの内製にゼロから挑んだ当社は試行錯誤を重ねましたが、その過程も含めて多くの共感をいただいています。

当社からRPAをご提案する際は、導入してできることを大まかにお伝えした上で、時間的負担が重い定型業務を探って改善を目指します。また業務の棚卸しやロボットの横展開などを通じた導入効果の最大化も図ります。

RPAの活用拡大に向けては、自社の経験から「開発委託のみ」「BizRobo!による社内開発を併用」「社内開発に一本化」「業務革新に応用」という4段階のステップアップを推奨しています。より失敗しにくく、確実なDX戦略に貢献できれば幸いです。（上野氏）

私は新卒入社後すぐRPAの専任担当となり、Excel関数が分かる程度のIT知識からBizRobo!の操作を学び始めました。BizRobo!のサポートコンテンツを利用しながらロボットの作成や保守を半年続けると新規開発もできるようになり、1年経つと一通りの理解を実感できるようになりました。

新規開発とともに、いま力を入れているのが開発済みロボットの改善です。例えば、複数のロボットに共通する部分は"同じ部品"（スニペット）で再設計し、接続先の改修などに伴う対応が一度で済むようにしています。

今後はお取引先へのRPA導入提案も担当する予定です。日々のちょっとした作業から膨大な事務処理まで、昼夜を問わず正確にこなしてくれるRPAのメリットを、実体験を交えてお伝えできればと思います。（橋村氏）

私は事務職として受注業務や顧客対応などのかたわら、RPAの開発運用に携わっています。

お付き合いの長い取引先である小松鋼機のモデルにならい、当社はまず2業務に開発委託型のRPAを導入して効果を確かめた後、BizRobo!による社内開発に入りました。オンラインミーティングで、的確なサポートがすぐ得られる「リーディングプログラム」も利用し、既に6業務向けのロボットを開発しています。

特に煩雑な手作業での抜け漏れリスクが課題だった、受注情報の基幹システムへの登録業務で自動化を進められた成果は大きく、毎週の作業時間の半減や、新人が担当できる範囲の拡大につながりました。（株式会社灰田鉄工　金井 優子氏）

事務職の中からRPA開発担当2名中の1人に指名され、私は既存の担当業務のかたわら、まず動画やナレッジといった公開コンテンツでBizRobo!の操作を学んでいました。

その後「こういうロボットを作るとき、この部分をどう設計すれば」など、具体的な不明点を調べて解決する段階で壁を感じていたところ、約10回のオンラインミーティングで学ぶリーディングプログラムに参加することとなりました。

対話も交えて課題に取り組むうちに理解が深まり、当初「かなり高度」と言われていたデータの自動登録を実現できたのは、大きな自信になりました。今後はRPAを社内にPRし、他部署の業務改善にも貢献できたらと考えています。（同社　池上 あゆみ氏）

OPEN
オープン株式会社は日本国内で長年にわたりRPA事業を展開し、業界・地域を問わずその活用ノウハウを提供しています。「ヒトの進化を共創する」ことをミッションに掲げ、BizRobo!をはじめとするRPA関連製品・サービスの提供により、個性が思う存分活かされ、楽しむ人たちが躍動する未来の実現に向かっていきます。
オープン株式会社　〒105-0003 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル3F　BizRobo!事務局：Tel 03-6778-0864
もっと情報を知りたい方は
BizRobo!　検索
https://rpa-technologies.com
お問い合わせ：

※記載している内容は取材日時点の情報です。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.